



進行用動画



ゲームで使用したカード・地図・指示書

活用場面

一斉学習

教師による教材の提示

個別学習

思考を深める学習

家庭学習

協働学習

発表や話し合い

協働での意見整理

活用した機器等

PC
プロジェクター

活用したアプリ等

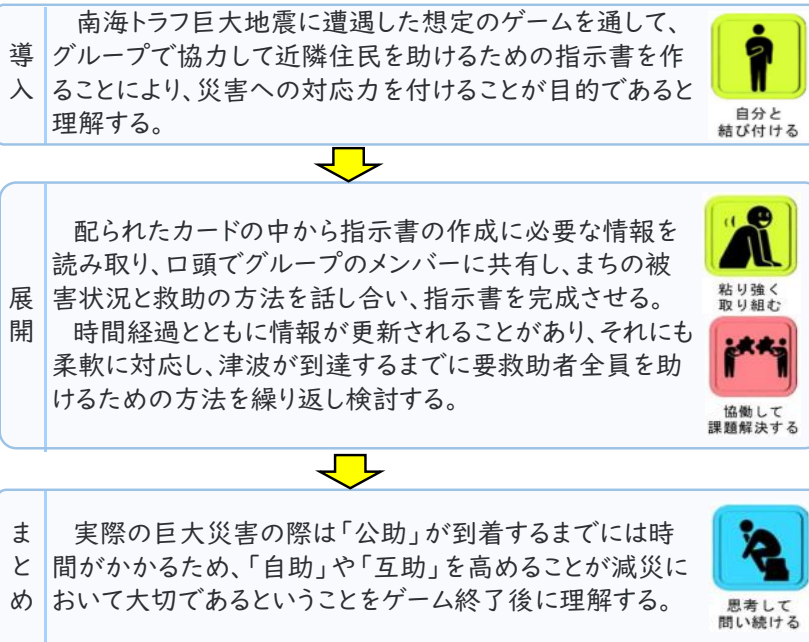
Canva
Google Classroom

※本ゲームはクリエイティブ・コモンズ・ライセンス ー非営利ー継承のもとに提供されており、自由に使用・転載等を行うことが認められています。

学習のねらい

グループでの災害協カシミュレーションゲームを通して、災害を「自分ごと」として捉え、生徒どうしで協力しながら災害時を想定した、限られた情報の中から最適解を見出す体験をすることによって、災害に対して柔軟に対応する力を身に付ける。また、災害時の「互助」の大切さを理解し、地域社会の一員としての責任を考える。

学習の流れ



ここでICTを活用！

【導入】
ゲームの状況やルールなどを動画にすることによって、毎回過不足なく説明内容を伝えることができる。

【展開】
時間経過イベントが動画で自動で流れるため、時間管理に気を取られず、机間指導に注力でき、グループでの進行や理解の度合いをしっかりと確認しながら適切なアドバイスができる。

【まとめ】
ゲーム終了後、全員分のカードの内容、まちの位置関係や指示書の模範解答をGoogle Classroomで示すことで、グループによる判断や指示の違い、最適な判断であったかどうか、よりよい指示はどのようなものであるかなどを比較しながら、振り返りに活用することができる。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

神戸市の災害協カシミュレーションゲーム「ダイレクトロード海辺のまち」を防災教育の導入として行った。このゲームは実際の災害時のように時間経過とともに火災が広がったり、救助の要請が変化したりするゲームである。進行役と確認役（情報が正しく整理されていて正解が導かれているかを確認する）が必要になるが、教員がCanvaにて進行内容をあらかじめ動画にしておくことにより、担当教員は机間指導に徹することができるため、生徒の理解度や進捗を把握でき、適切なアドバイスを行い、スムーズに進行することができる。説明を動画にすることで、設定やルールの説明内容が毎回過不足なく行える。また、欠席した生徒には後日動画を活用することによって、ゲームを体験する補習を行うことができる。生徒はこのゲームに参加することで、災害を疑似体験し、防災を「自分ごと」として考えるきっかけになった。